

北九州市地球温暖化対策実行計画の改定について

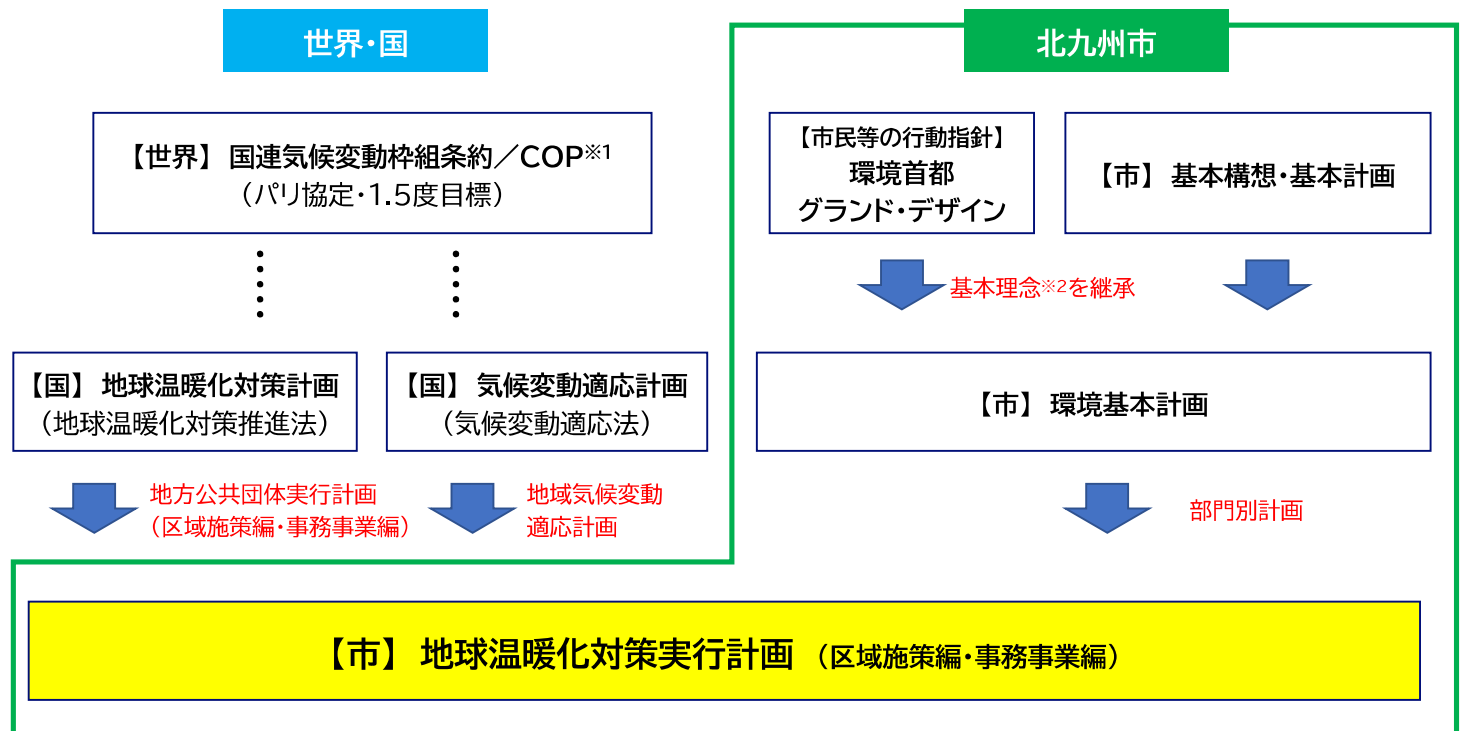
改定の方向性(案)

4/11審議会資料

現行計画の考え方(環境と経済の好循環)を踏襲しつつ、
国内外の動向やサステナビリティ(持続可能性)の視点を踏まえ、
2050年ネット・ゼロの実現に向けた環境先進都市としてふさわしい計画とする。
(計画期間：2026年度～2040年度)

- 1 環境先進都市としてふさわしい2035年と2040年の削減目標※を設定
※2013年度からのフォアキャスト及び2050年ネット・ゼロからのバックキャストの両面から設定
※基準年度は、国の地球温暖化対策計画と整合を図り、2013年度から変更しない
- 2 本市の持続可能な発展(家庭や企業にとって持続可能な社会経済システムの構築)のための施策の実施
(例：市民の脱炭素行動を促す広報・普及啓発、本市の強みを生かした再エネ・水素・サーキュラーエコノミーなどの先進的な取組 など)
- 3 「脱炭素社会の実現」に対する、市民や事業者の理解度向上
→2030年～2050年の社会を具体的にイメージできるよう、計画をより分かりやすく作成

脱炭素社会を実現(温室効果ガス排出量の削減)し、
「環境と経済の好循環」へ



※1:国連気候変動枠組条約締約国会議。全ての条約締約国が参加し、条約の実施に関するレビューや各種決定を行う。

※2:「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ

計画の構成(案)

計画の構成(案)

1 計画の基本的事項(背景・目的、温暖化の現状、計画の位置づけ など)

2 基本的な考え方(基本理念・方向性 など)

3 北九州市の現状

- ・社会的条件(人口、産業など)
- ・エネルギー、CO₂排出状況(主要部門)

4 温室効果ガスの削減目標

- ・目標の設定方法と考え方
- ・2030年度、【新】2035年度、【新】2040年度、2050年

5 2050年に目指す脱炭素社会

- ・2050年に向けた基本的な考え方
- ・北九州市が目指す2050年の脱炭素社会
(ゼロカーボンシティ)

6 部門別の緩和策(取組内容)

- ・部門ごとの取組内容
- ・【新】施策の実施に関する目標

7 市役所率先実行

- ・市役所業務に係る取組み(目標など)

8 【新】地域脱炭素化促進事業

- ・地域脱炭素化促進事業の目標
- ・促進区域の設定

9 世界における脱炭素化への貢献

- ・環境国際協力・ビジネスによる貢献

10 適応策(気候変動影響への対応)

- ・気候変動影響に関する情報
- ・分野別の取組み内容

11 計画の推進

- ・計画の進行管理、見直し

12 参考資料(市民アンケート など)

5

本日ご審議頂きたい事項

- 計画の基本的事項
- 基本的な考え方
- 北九州市の現状
- 温室効果ガスの削減目標
- 2050年に目指す脱炭素社会
- 部門別の緩和策(取組内容)

1 計画の基本的事項

7

計画の基本的事項

背景・目的

近年の気候変動や地球温暖化に係る科学的知見、国内外の動向などを記載

計画の 位置づけ

- 「北九州市環境基本計画」の部門別計画
- 「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく地方公共団体実行計画（区域施策編、事務事業編）
- 「気候変動適応法」に基づく地域気候変動適応計画

計画期間

- 2026(令和8)年度から2040(令和22)年度までの15年間（適宜見直し）

対象物質

- 二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、一酸化二窒素(N₂O)、代替フロン類（ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン）、六フッ化硫黄、三フッ化窒素

2 基本的な考え方

9

基本的な考え方

(1) 考え方の基盤

- 上位計画である環境基本計画に掲げる基本理念と柱を、考え方の基盤とする。

環境基本計画に掲げる基本理念
「真の豊かさ」にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐ

基本理念を実現するための3つの柱

共に生き、共に創る

環境で経済を拓く

都市の持続可能性を高める

(2) 「環境と経済の好循環」の実現

- 地球温暖化への対応を経済成長の機会と捉え、産業構造や社会構造の変革をもたらし、経済成長と温室効果ガス排出削減の同時達成を目指す。

(3) 世界への貢献

- サステナビリティ(持続可能性)の視点を踏まえ、世界の脱炭素に貢献する。